

平成 25～27 年度健康づくり家庭訪問事業報告

保健課保健指導係

1. 事業の概要

- (1) 事業対象 各年度 62 歳の市民 (S26 年 4 月 2 日生～S29 年 4 月 1 日生)
- (2) 実施時期 平成 25 年 5 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日
- (3) 実施方法 保健課保健師の訪問による面接または電話での聞き取り。

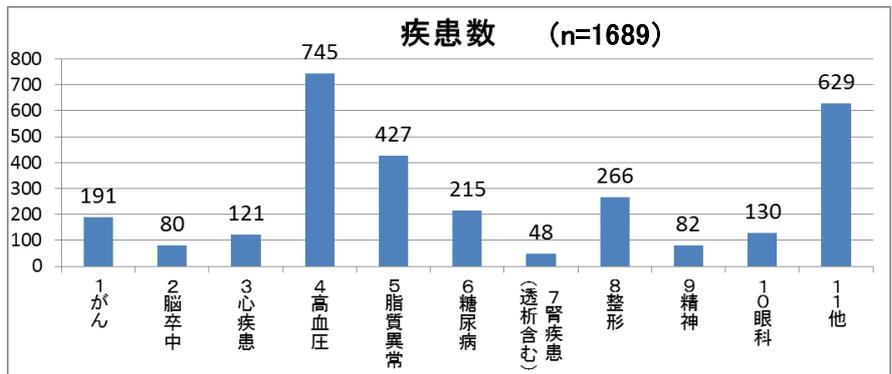
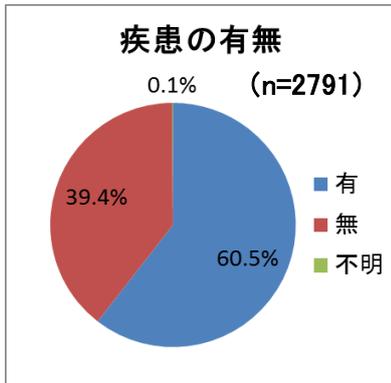
2. 実施状況

【訪問数】

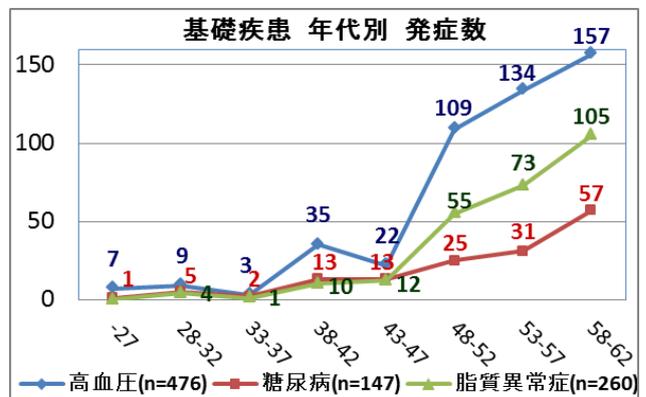
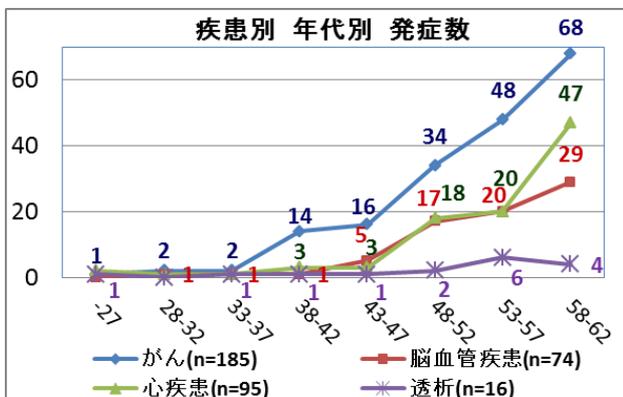
	保険	対象数	実施数	実施率 (%)	訪問方法 内訳					訪問不可		
					本人面接	本人電話	家族面接	家族電話	他聞き取り	日中不在	拒否	その他
合計	国保	1673	1341	80.2	1031	170	108	28	4	201	73	58
	国保以外	2561	1456	56.9	833	228	295	100	0	878	177	41
	計	4234	2797	66.1	1864	398	403	128	4	1079	250	99

3. 聞き取りの状況と考察

(1) 疾患



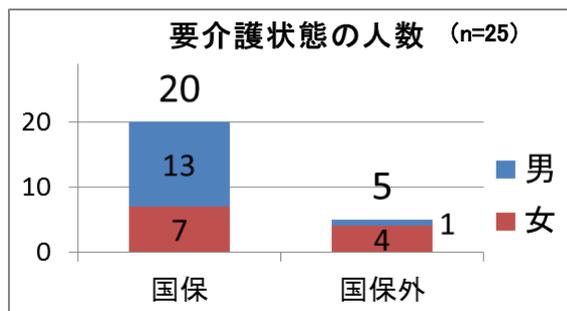
何らかの疾患で現在治療中の人の割合は 60.5%。



疾患別の発症年齢について 62 歳を基準に 5 歳刻みで見ると、特に 50 歳代からの発症が著しく増加していた。

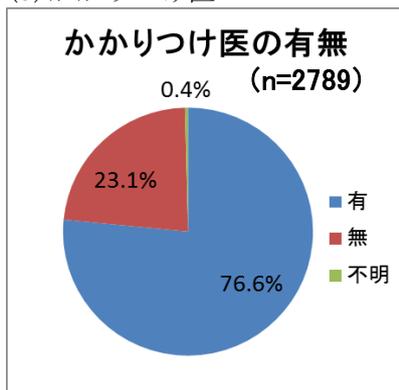
これらのことから、若い世代から健診等による定期的な健康状態の確認、生活習慣を見直すための支援などを行い、生活習慣病の予防・早期発見・重症化予防を進める必要がある。

(2) 介護



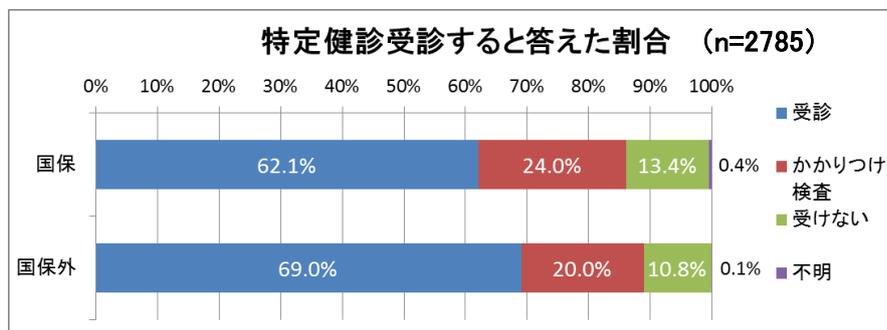
本人が要介護状態だった人は25人。
そのうち20人が国保加入者であった。

(3) かかりつけ医



62歳ではかかりつけ医をもつ人が76.6%であった。多くの人がかかりつけ医を持っているが、引き続き、かかりつけ医の重要性について周知が必要である。

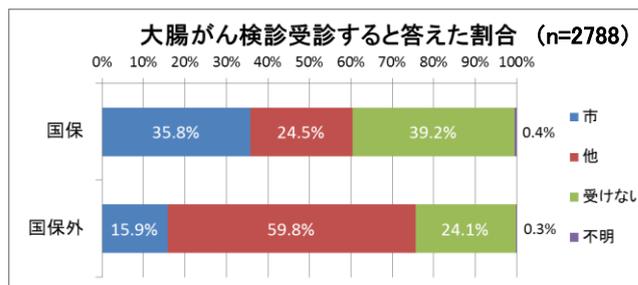
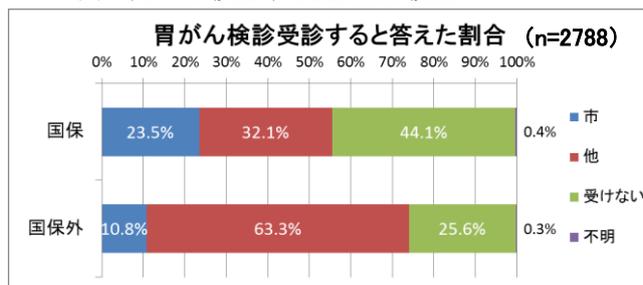
(4) 特定健診



国保加入者で飯田市特定健診を受診すると答えた人は62.1%であった。しかし、実際の受診状況は平成27年度で43.6%（平成28年2月22日時点）と、大きな差がある。受診すると答えた人が確実に特定健診を受診できるように受診勧奨をすることが受診率向上の第一のポイントである。

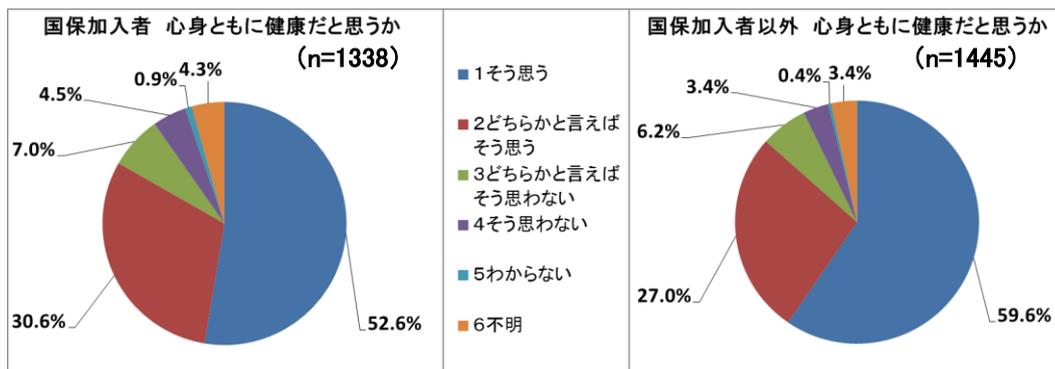
国保加入者以外は、職場健診で受診できる方が多いと思われる。

(5) 胃がん検診、大腸がん検診



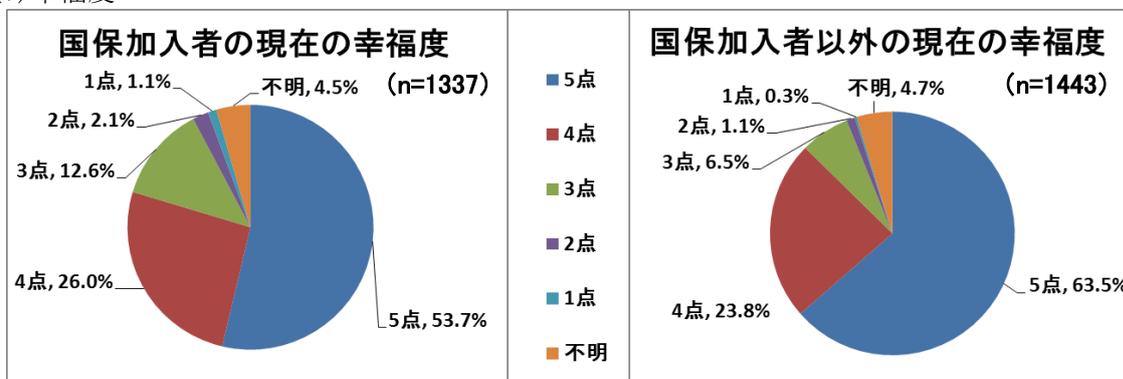
胃・大腸がん検診を受けないと回答した人は、特に国保加入者が多かった。

(6) 心身ともに健康だと思うか



平成 26 年度の市民意識調査における 60 歳代の回答は、「そう思う」19.2%「どちらかといえば思う」45.5%「どちらかといえばそう思わない」14.1%「そう思わない」18.8%。62 歳の聞き取りでは、「そう思う」の割合 55.5%と市民意識調査を大きく上回った。加入保険別に見ると、国保加入者の方が「そう思う」の割合が低かった。

(7) 幸福度



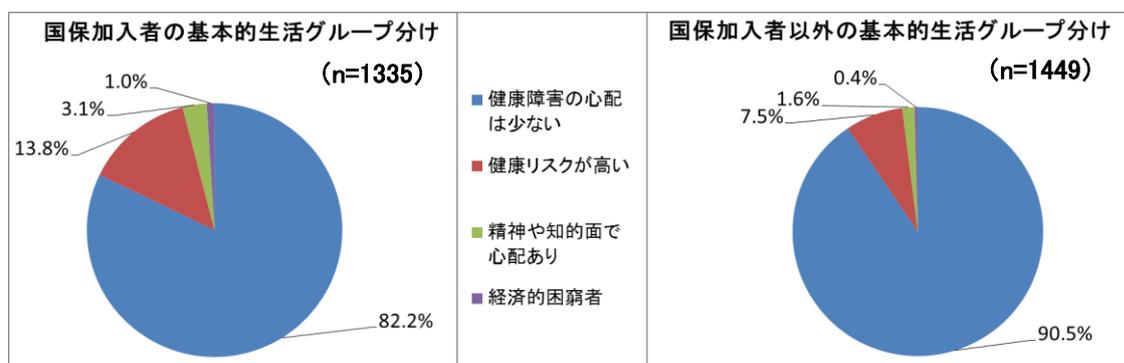
個々が感じている「幸せ」に焦点をあて、市民がどのような気持ちで暮らしているのかに着目した項目である。内閣府の行った「平成 25 年度 生活の質に関する調査」における「主観的幸福感」では 0 から 10 点で測定し中間点の 5 点と比較的幸福度の高い 7 ないし 8 点が多数を占める結果になっている。62 歳では、満点の 5 点が 58.8%、4 点が 24.9%であわせて 83.7%の人が幸せと感じている。保険別に見ると満点の 5 点の割合に大きな差が生じており、国保加入者以外の方が、幸福度が高く、充実した生活を送っていることが感じられた。

4. 保健師の視点から 62 歳をグループ分けしての考察

(1) 基本的な生活および健康

保健師の視点で、4 つのグループに分けた考察。

「健康障害の心配が少ない」「健康リスクが高い」「精神や知的面の心配あり」「経済的困窮者」



62 歳では健康障害の心配が少ない人が 86.5%と多い。

保険別に見ると国保加入者は国保加入者以外に比べ健康リスクが高い人、精神や知的面で心配がある人、経済的困窮者の割合が高い。